はじめに

私の将来の夢は地方に移住することである。学部時代に伊豆大島に行ったことがきっかけで、そう考えるようになった。
この島最大の魅力は、写真のような雄大な自然でもあるが、何よりの魅力は島民の方々が島の魅力をよく知り、それを観光客にたくさん教えてくれる点だと考える。
そんな彼らの姿を見て、私は地方に興味を持つようになった。また、昨今の新型コロナウイルスの影響で、都会ならではの密さを不便に思い、地方移住を考える人も増えるのではないか。

写真：作者撮影

そんな折に読んだのが、金丸弘美著の幸福な田舎の作り方という本である。この本では９つの地域のまちづくりが紹介されている。
読み進める中で、地域のコミュニティを元気にしていくには、「発見→発信→共感→つながり」の流れでことが進んでいくという共通項を見つけた。

金丸弘美
「幸福な田舎のつくりかた」

表　地域の活性化事例

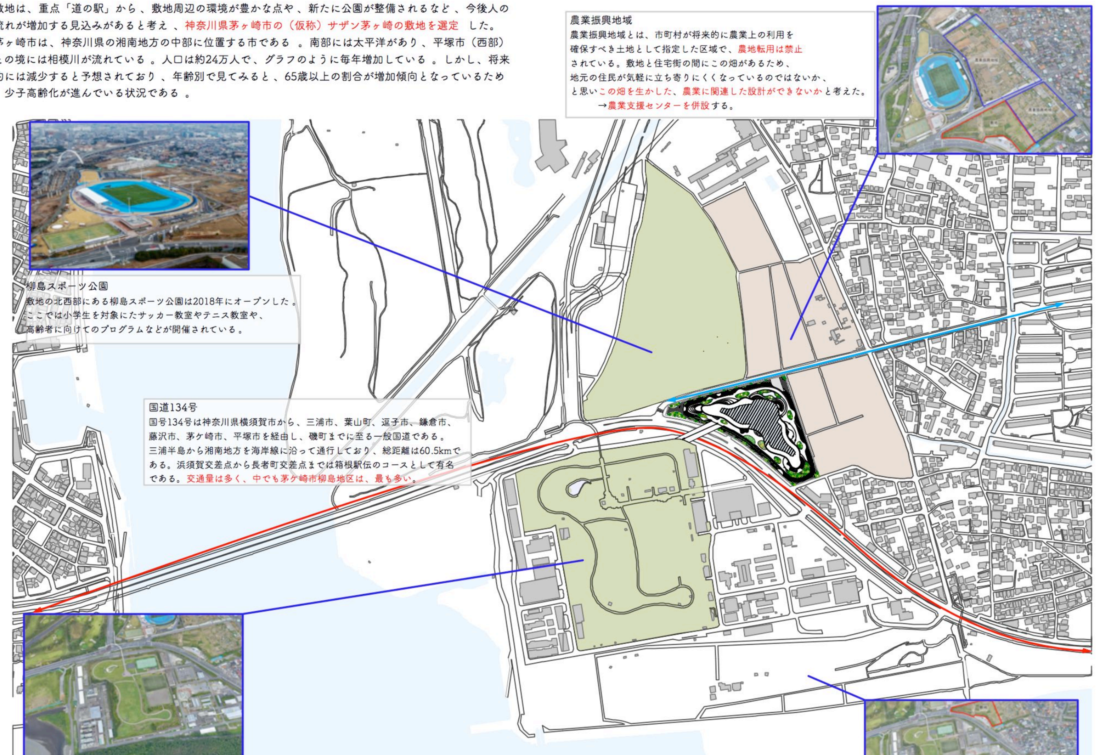
表：作者作成

場所＼項目	発見	発信	共感	つながり
鶴岡市	在来作物・食文化	レストラン・映画	食の甲子園 映画村	食育・映画
阿蘇市	商店街	夜市	お座敷商店街 景観	旅する蚤の市
萩市	水産資源	道の駅	道の駅	メディア試食会 料理本
四万十市	名産品	道の駅	インターンシップ 祭り	ネット通販
今治市	高齢化した農家	直売所	直売所の運営方法	イベント
	↓ 魅力	↓ 場所	↓ イベント ブランディング	↓ 他地域に向けた発信

本で紹介された９つの事例の中から 、この「発見・発信・共感・つながり 」の流れに特に当てはまるものを５つ選び、表にまとめた。
発見は、その地域の元から存在していた魅力のことで 、それを発信したのが表にあるレストランや道の駅 、直売所である。つまり、発信には場所が当てはまる 。
今回はこの発信に着目した 。建築の視点で地方活性化に貢献するには、地域の魅力を発信する施設を作ることが最適であると考えた 。中でも、道の駅のような地元の人も観光客もどちらも訪れる場所が良いと考え、修士設計では地域の魅力を発信する道の駅を設計 する。

敷地周辺環境について

敷地は、重点「道の駅」から 、敷地周辺の環境が豊かな点や 、新たに公園が整備されるなど 、今後人の流れが増加する見込みがあると考え 、神奈川県茅ヶ崎市の（仮称）サザン茅ヶ崎の敷地を選定 した。
茅ヶ崎市は、神奈川県の湘南地方の中部に位置する市である 。南部には太平洋があり 、平塚市（西部）との境には相模川が流れている 。人口は約24万人で、グラフのように毎年増加している 。しかし、将来的には減少すると予想されており 、年齢別で見てみると 、65歳以上の割合が増加傾向となっているため 、少子高齢化が進んでいる状況である 。



農業振興地域
農業振興地域とは、市町村が将来的に農業上の利用を確保すべき土地として指定した区域で、農地転用は禁止されている。敷地と住宅街の間にこの畑があるため、地元の住民が気軽に立ち寄りにくくなっているのではないか、と思いこの畑を生かした、農業に関連した設計ができないかと考えた。
→農業支援センターを併設する。

柳島スポーツ公園
敷地の北西部にある柳島スポーツ公園は2018年にオープンした 。
ここでは小学生を対象にたサッカー教室やテニス教室や、
高齢者に向けてのプログラムなどが開催されている 。

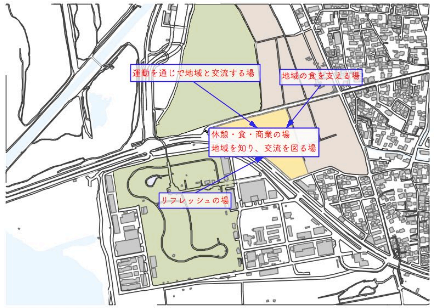
国道134号
国号134号は神奈川県横須賀市から、三浦市、葉山町、逗子市、鎌倉市、藤沢市、茅ケ崎市、平塚市を経由し、磯町までに至る一般国道である。
三浦半島から湘南地方を海岸線に沿って通行しており、総距離は60.5kmである。浜須賀交差点から長者町交差点までは箱根駅伝のコースとして有名である。交通量は多く、中でも茅ケ崎市柳島地区は、最も多い。

柳島しおさい公園
柳島しおさい公園は柳島水再生センターの屋上を有効活用したもので、
7．６５ヘクタールの広さがある。
しかし、屋上を使っているため、地上を歩いていても周りは塀で囲まれているため、公園があるようには見えない。
そのため、公園があることを知らない人には利用されにくいことが欠点である 。

柳島キャンプ場
柳島キャンプ場は2012年に開設した、湘南地域唯一の公営キャンプ場で、敷地面積は3.7ヘクタールである。場内は松林に囲まれており、テントサイトやキャビン、大人数で宿泊できる宿泊棟がある。
また炊事場やバーベキューコーナー、子供用の遊具など設備も豊富で、キャンプ用の機材もレンタルされており、気軽にキャンプを楽しむことができる。

提案

周囲環境との関係を考える

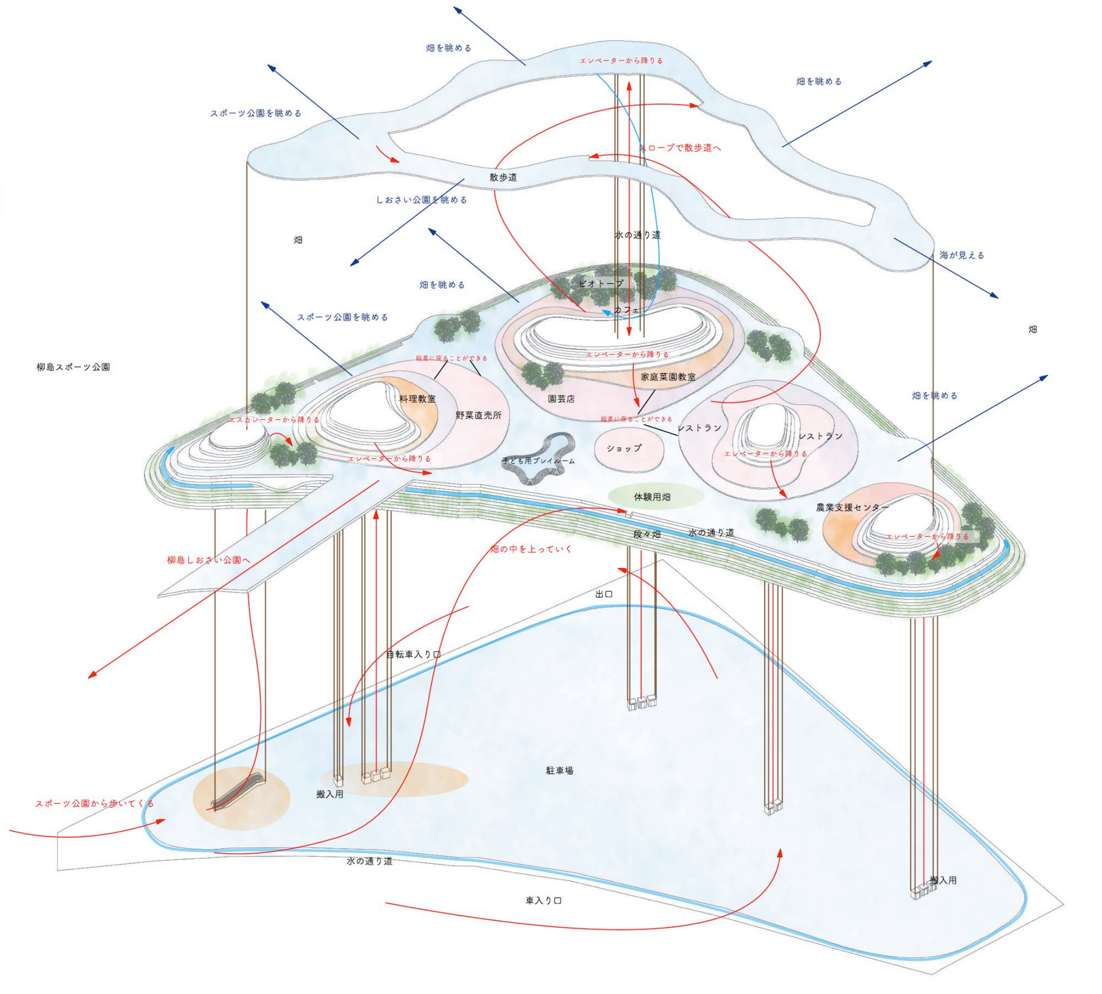


敷地は公園や畑に囲まれているため 、周辺施設との連携を促す建築にする必要があると考えた 。
柳島スポーツ公園との連携を図るため 、スポーツ公園との間にある横断歩道に向けて歩行者用の入り口を設ける 。スポーツ公園ではサッカー教室なども行われているため 、２つの施設をつなげることで、子供を送り届けた保護者や、自転車で遊びに来た子供たちが、道の駅のカフェなどを利用すると考えられる 。
柳島しおさい公園は、下水処理場の屋上にあり、周りは塀で囲まれているため 、道を歩いていてもその姿を見ることができない 。そのため、道の駅の２階とブリッジでつなげることで、互いにメリットがあると考えた。
　またそれぞれの関係性を考えると 、スポーツ公園は、運動を通じて人々の交流ができる場所であり、しおさい公園は人々のリフレッシュの場としての役割を担っている。また農業振興地域は、地域の食を支える場としての役割を担っている。道の駅では食や農業を通じて交流ができる場所として、地域貢献の役割を分担し、相互関係を築くことができるのではないか。
以上のことから、三角形の敷地の三辺全てが、裏になってはならないことがわかる。よって駐車場と建物を分けて配置するのではなく、敷地全体を大きく使い、周囲と馴染む設計にしなければならないことがわかった。

↓

コンセプト
畑のようで、公園のような道の駅
３つの周辺環境の緩衝材となるような場

ダイアグラム

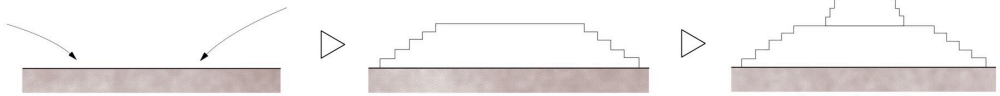


休憩機能	地域連携機能	→ 動線			
情報発信機能	植物	→ 視線			

道の駅の３要素である休憩機能をベースに、全体に混ざり合うように設計した

ダイアグラム

ii　形の成り立ち



① 公園と畑に囲まれた土地

周囲が公園と畑に囲まれているため、
周囲に馴染む建築を作らなければならない。

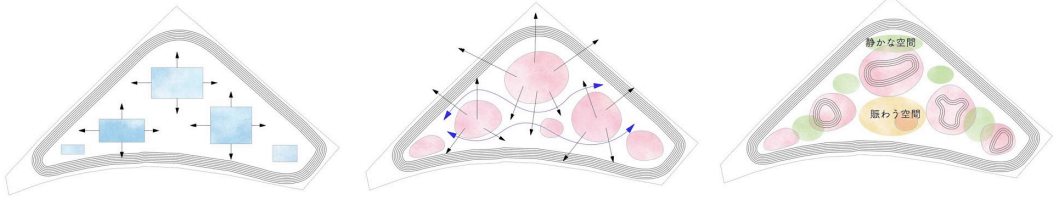
② 駐車場を１階に配置し、２階に公園、周囲を段々畑に

建物に裏表を作らず、全体を広く使うために、建物と駐車場を分けず、
１階全体を屋内駐車場を設けた。外壁を高さ１mごとにセットバックし、
段々畑を作り、全体を山のような形にした。

③ 公園に道の駅の要素を足す

山の上に小さな山を作り、それぞれに役割を与え、
道の駅の要素を足した。

ii　平面計画

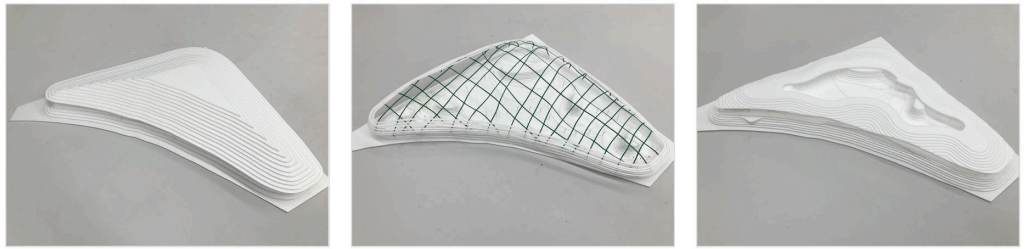


① 山の形を四角にすると、それぞれに方向性が出てしまう。

② 山を曲線で作ることにより、方向性がなくなり、
自由度が増し、回遊性も高まる。
公園の中を自由に歩き回るように、この建物内も
それぞれの思うままに歩くことができる。

③ 山の立ち上がり方で、緩やかに方向性を作り、賑わう空間と、
静かにくつろぐ空間を作った。
静かにくつろぐ空間には、植栽があり、木陰で休むことができる。

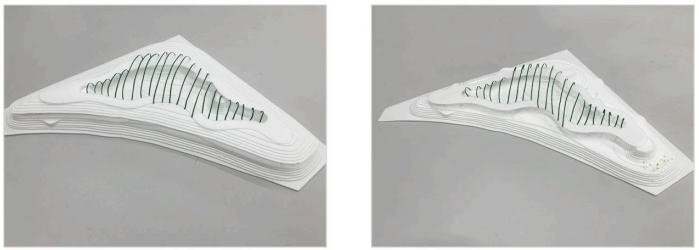
iii　屋根の検討



① 山の上に、山を乗せて、屋根を作る
→重たい印象になった。

② 軽い素材で全体を覆い、屋根を作り、下部はルーバーを作る。
→屋根の存在感が強すぎる。屋上を作りたい。

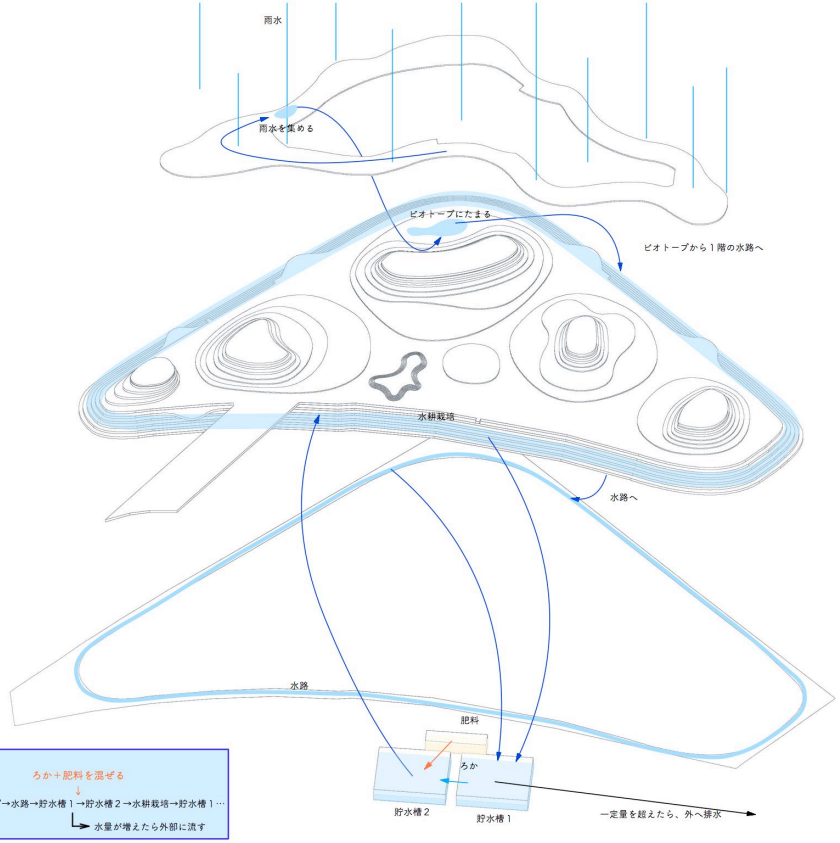
③ 屋上に散歩道を作り、その形に沿った屋根を作る
→形が複雑になる。屋根の存在感がまだ強い。



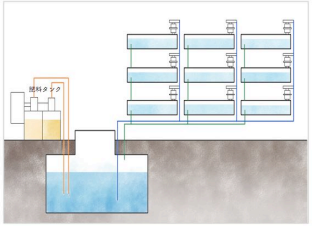
④ 散歩道の内側にガラスを覆い、１階の段々畑と平行な屋根を作る
→まだ屋根の印象が強い

⑤ 散歩道とガラスを残し、その他の屋根をなくす
→全体の印象が軽くなった

環境の計画

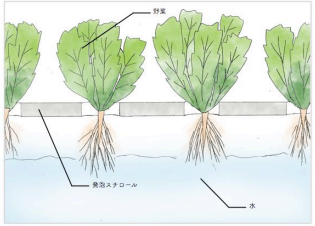


iv-ii　一般的な水耕栽培を行うためのシステム



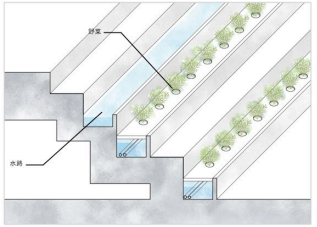
一ヶ所の貯水槽で全体の水の量・流れが管理できる　　排水　　給水

iv-iii　水耕栽培の断面スケッチ



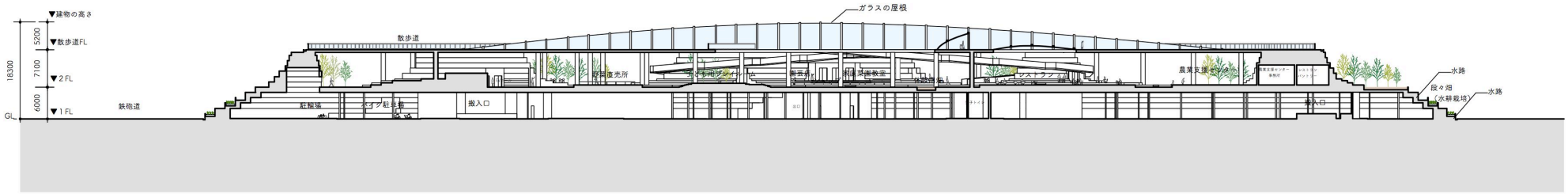
水槽の上に発泡スチロールを乗せ、そこに穴を開ける。
穴に野菜を差し、根が水に着くように水の量を調整する。

iv-iii　本設計における水耕栽培のアクソメ図

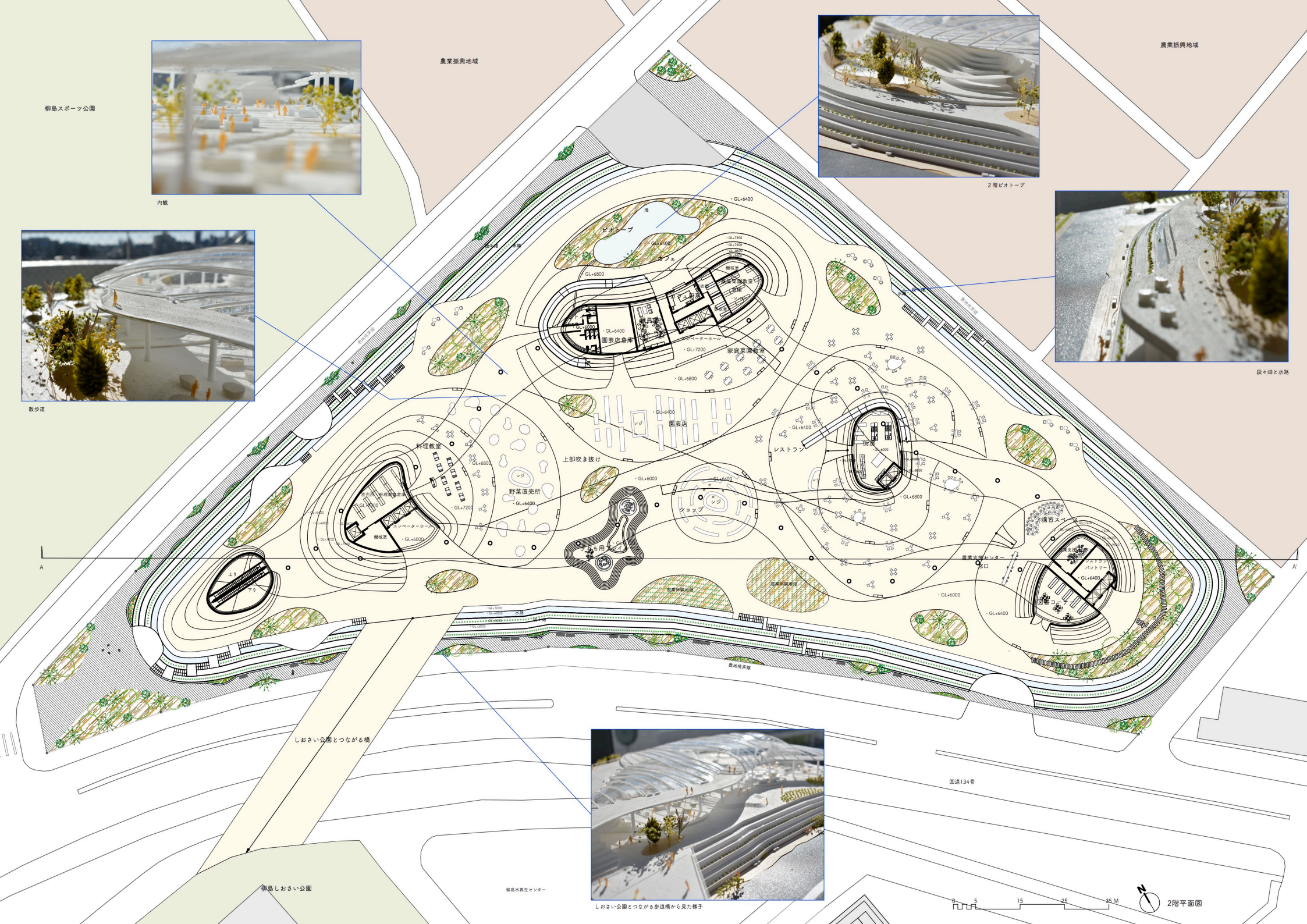


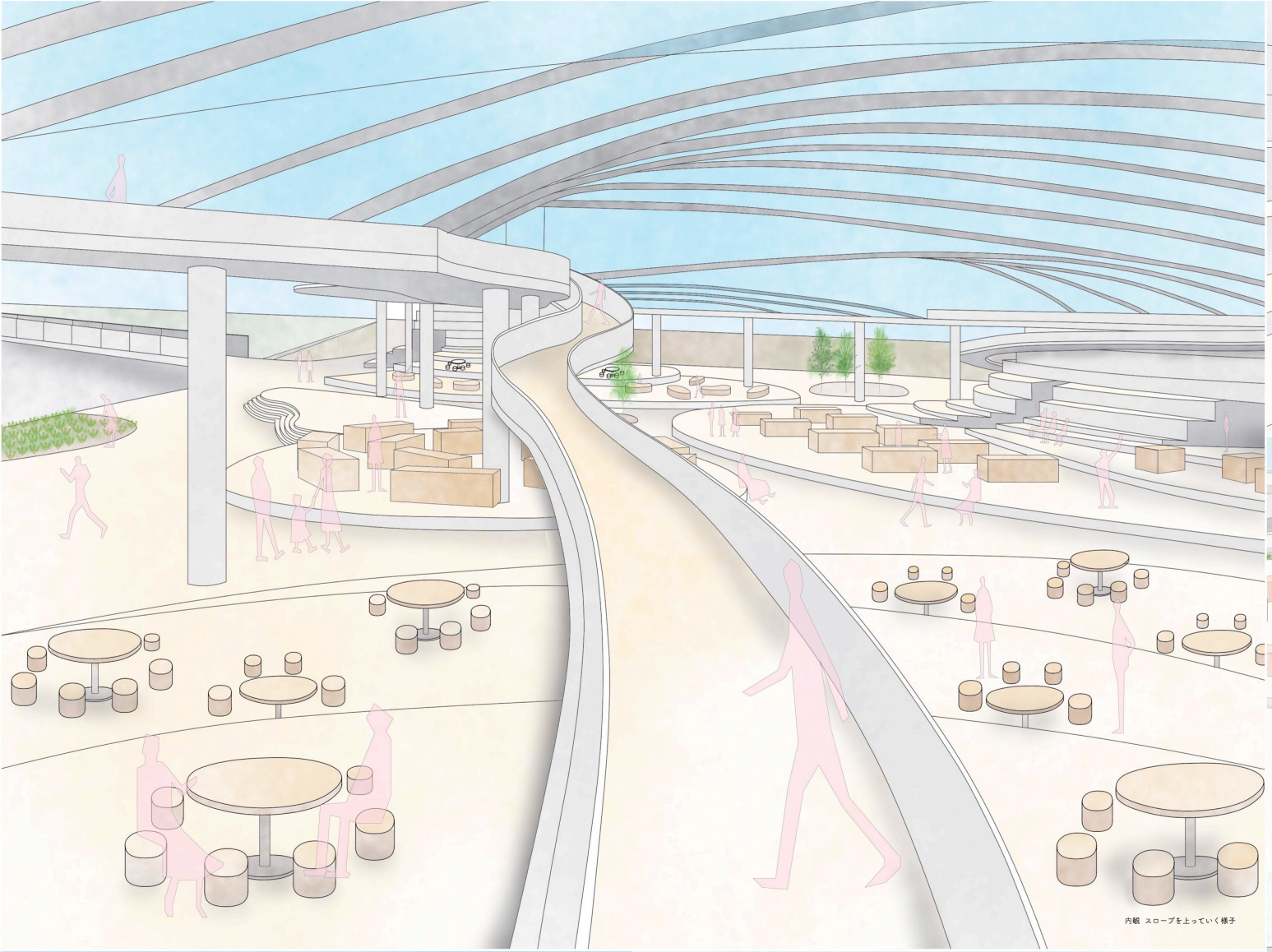
階段の１段目と３段目で水耕栽培を行う。

断面図

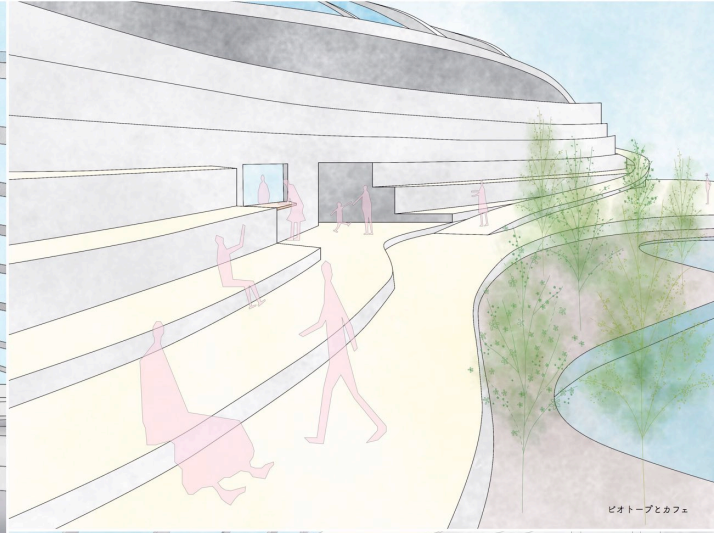


A-A'断面図

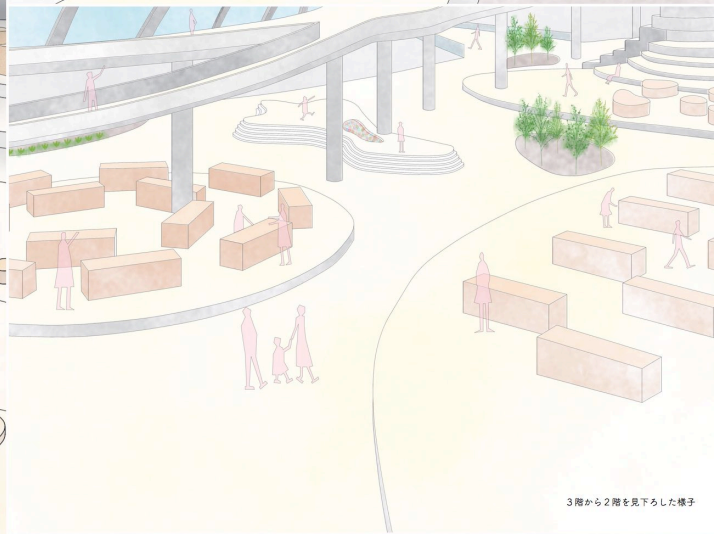

農業振興地域
柳島スポーツ公園
内観
2階ビオトープ
農業振興地域
散歩道
段々畑と水路
ビオトープ
池
カフェ
園芸店倉庫
家庭菜園教室
園芸店
レストラン
厨房
料理教室
上部吹き抜け
野菜直売所
ショップ
講習スペース
農業支援センター
しおさい公園とつながる橋
国道134号
柳島しおさい公園
柳島水再生センター
敷地境界線
しおさい公園とつながる歩道橋から見た様子
0 5 15 25 35 M
2階平面図



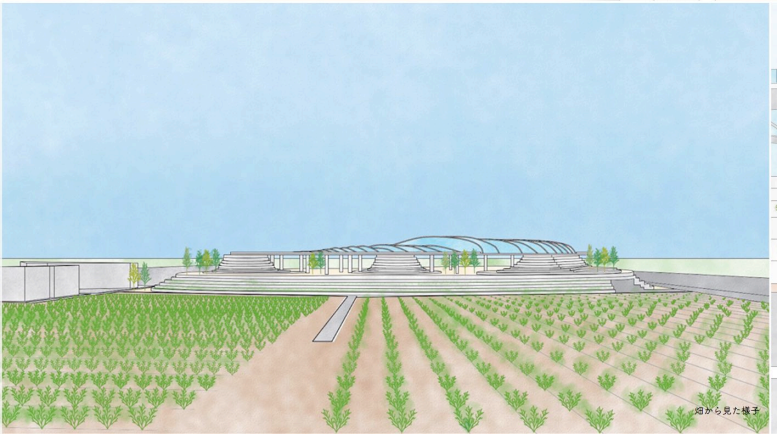
内観 スロープを上っていく様子



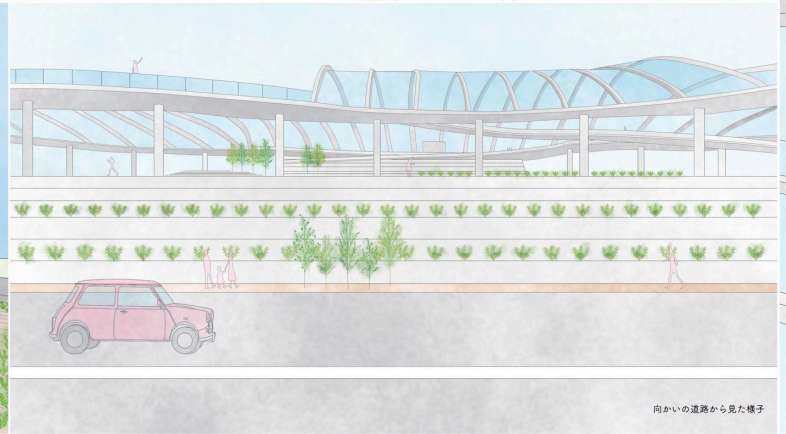
ビオトープとカフェ



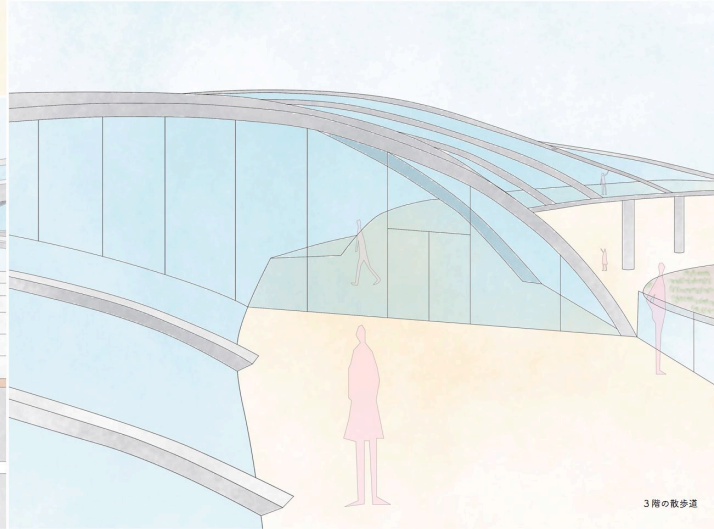
3階から2階を見下ろした様子



畑から見た様子



向かいの道路から見た様子



3階の散歩道